

平成25年6月18日(火)

中央保育園移転建替事業 会見要望書

福岡市長 高島 宗一郎 様

私たちは、昨年より移転先に問題があると感じ、予定されている土地に反対しています。園児たちの安全を守れないような保育園予定地には断固、反対いたします。それだけではなく、働く保育士の声を無視したような移転計画にも断固、反対いたします。どうしてこのような立て替え事業になったのか高島市長に対して正式な会見を切に要望いたします。

以下、先日提出させていただいた中止要望書と重複いたしますが、私たちは、協力者によって市内の定員230名以上の保育園13箇所の避難路について現地調査をして確認しました(園地が二か所に分かれているところは除いています)。その結果、前面道路にしか面していない本件計画が、市内で最も定員が多いにもかかわらず、最も安全確保において貧弱であることを知りました。また、北九州市と、それ以上の人口規模の政令指定都市11市の定員300名以上の保育園について、現地に行き、敷地と道路の関係を調べました。中止要望書資料をご覧ください。

まず、200名以上の定員の保育園を作ること自体が、無謀だと思います。自分で身を守れない幼児を、一か所にそんなに多く集めてはならないはずです。また、角地または、前後の道路に面し、2方向に避難路が確保できるのが原則であることも知りました。5月13日に、こども未来局長は、この土地が最善なので場所の変更できない。それ以外で条件整備を考える、と言いつつ、「私も避難路の確保は何とかしなければと思う」と言いました。市が言う「最善の土地」とは、他の土地を購入して避難路を確保する必要があり、保育園の200メートル以内にはあってはならないはずのパチンコ店が隣り、そして一軒隣にはラブホテルと、こんな土地がどうして最善の土地なのでしょう。さらに、前面道路は、幅5.5Mの、一方通行の狭い道で、天神への抜け道になっているため、付近でも非常に交通量の多い道です。子供の手を引きながら、ベビーカーを押して通園する親にとっては、歩道もなく、危ない通園路です。園外保育を行う保育士の先生たちのことを思うと、とても大きな心労を抱えてしまうことは間違いありません。パチンコ店のダクトの問題もこども未来局の回答は二転三転し、なにを信じていいのかさえわかりませんが、換気であろうが、非常時の排煙用だろうが、園庭に向いているダクトには、園児になにかしらの影響をあたえるでしょう。想像してください、多数のダクトの下で遊んでいる庭園の園児たち。風営法の法の精神をも無視した環境。児童にとってまったくいい環境ではない土地だとわかってください。そして高島市長の見解をお聞かせください。この移転計画が児童会館の建て替え事業の負の産物になっていることも知っています。この移転事業に関するすべてを包み隠さず会見でお答えください。

私たちは、この場所に保育園を立てることを断固拒絶します。角地か、前後二方向の接道地に保育園を建設してください。今の場所にと、もう一か所150名程度の保育園用地を確保すればよいだけです。幸い、このあたりには、コインパーキングで使われている土地がいくつもあります。そうすれば、市が説明するような、パチンコ店の敷地に入り、鍵のかかった狭いドアを開けてもらい、60センチの段差を飛び下りて避難する必要はなくなります。私たちは最初から二か所保育園を作ってほしいと要望していましたが、お金がかかりすぎるからできないと断られました。しかし、市内のほぼ四分の三は、定員150名以下で運営されています。私たちの二か所作る(1か所定員150名)と言う要望は、むしろ自然な計画だと思います。子供の命と、お金と、どちらが大事なのでしょう。普通にある保育園を作っていただくことが、毎日子供の命を心配しながら預けなければならないほど、税金の無駄遣いだとは思えません。利用者である私たちの声を聞き、将来に禍根を残さない保育園の建設をお願いします。建設計画は、全ての法律の規制を満たしているのですが、法律は最低限の基準でしかありません。市内で最も大規模な保育園が最も貧弱な安全対策などとは、違法でなくても不当です。子供の命がかかっているのです。想定外の惨事にも対応できるだけの保育園を作ってください。規制を満たしただけで済ませたから、福島のような大惨事が起きてしまった教訓を思い起こしてください。どこにでもある、普通の保育園を作ってほしいのです。

私たちの反対運動に保護者の方はもちろん、集計できているだけで約4,000名の市民が賛同をしていただき、署名が集まっております。市のトップである高島市長にはこの声を重く受け止めていただき、我々の前、メディアの前にて正式に会見していただきたく存じます。

中央保育園 保護者会

会長

副会長